

令和7年度第2回 感染症発生動向調査協議会  
議事概要

1 日 時 令和7年5月21日（水） 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）

川本 典生（岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 臨床教授）

澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授）

加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター 院長）

和泉 孝治（岐阜県産婦人科医会 岐阜地区 理事）

高橋 義人（岐阜県総合医療センター 中央検査部部長兼臨床検査科部長）

オブザーバー: 市原 拓（岐阜市保健所 感染症・医務薬務課 感染症1係長）

事 務 局 : 松尾 孝和（感染症対策推進課 感染症対策監）

酢谷 奈津（感染症対策推進課 感染症対策係長）

松岡 真史（感染症対策推進課 技術主査）

野池 真奈美（保健環境研究所 主任専門研究員）

吉田 菜穂（保健環境研究所 専門研究員）

4 議 題（進行：加藤委員）

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項について
- (4) その他（感染症対策推進課から）

5 議事概要

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○2025年第15週以降の定点変更後のデータについて（ARI、その他）

- ・（保健環境研究所から）第15週から始まったARIの各定点医療機関からの報告数をみると、医療機関ごとの報告数にかなりばらつきがあり、特に定点医療機関の少ない圏域で報告数が多い医療機関がある場合に平均値に大きく影響する可能性があります。
- ・（委員から）ARIに関しては、報告数の実数を問題にするのではなく、診断する医師が一定の基準で報告をあげることを前提として、どう推移するか注視していくことが必要です。
- ・（保健環境研究所から）感染性胃腸炎の患者数の推移をみると、第15週以降に特に増加したように見えます。これが定点を変更したことによる影響かどうかを検討するため、過去の報告のうち第15週以降も継続して定点となっている医療機関の報告分のみを抽出したところ、これまで公表していた報

告数よりも定点当たりの報告数が多くなる傾向があることが分かりました。

- ・（委員から）インフルエンザや新型コロナウイルス感染症をはじめその他の感染症においては、定点を変更しても一定の連続性が保たれているように見えます。第15週前後に感染性胃腸炎の患者が実際に増えていた印象もありますので、現時点における傾向として反映できているのではないのでしょうか。
- ・（感染症対策推進課から）第15週以降に飛騨地域でインフルエンザの報告が増加していたため、参加医療機関の多い岐阜県リアルタイム感染症サーベイランスシステムでも確認したところ、同じ時期に増加がみられていました。

#### 【その他】

○ぎふ感染症かわら版（百日咳の続報）の発行について

- ・（保健環境研究所から）3月にも発行していますが、4月以降の著しい増加を受けて再度発行を予定しています。
- ・（委員から）子供には積極的に検査を行うため診断、報告につながることが多いですが、実際は大人でもっと流行しているのかもしれない。

○麻しん（はしか）患者の発生について

- ・（委員から）今回の発生事例では最初に総合病院を受診していますが、海外から帰国した方が医療機関を受診する際の注意点について、十分に周知されているか懸念があります。また、一般のクリニックなどで麻しんを疑う事例を受け入れる場合の対策について、改めて医療機関へ周知する必要があるかもしれません。